

平成29年度 学校評価（自己評価書）

あま市立宝小学校

1 総括

（1）教育目標（学校経営案より）

「やさしい心 つよい体」

知・徳・体の調和のとれた人間形成をめざして、基礎・基本を重視しつつ個性と創造性を伸張し、生きる力と人間性豊かな児童の育成を図る。

（2）本年度の重点努力目標

ア 確かな学力の育成

- ・ 学びあいのある学習指導を工夫し、伝える力の育成を図る。
- ・ 教科・道徳・行事等のつながりを意識した効果的な指導の工夫をし、思考力・表現力・判断力を高め、実践する力を育成する。
- ・ ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、できる喜びを実感できる授業の工夫をする。
- ・ 小人数指導やT T指導の指導方法を工夫し、個に応じた学習指導の充実を図る。

イ 心豊かな児童の育成（小規模校の特徴を生かして）

- ・ 「宝っ子6つの約束」の実現をめざし、規範意識の醸成に努める。
- ・ 様々な交流活動の場を設定し、ふれあい、学び合う活動を通し、コミュニケーション能力の向上と自己肯定感の醸成に努める。
- ・ 行事・異学年交流・体験活動と結びつけた効果的な道徳教育を推進し、心豊かな児童の育成に努める。
- ・ 人権教育の推進に努め、よりよい集団づくりを通して、互いに認め合い、思いやりのある児童を育てる。

ウ 家庭・地域の教育力の活用

- ・ 保護者・地域ボランティアを授業などに積極的に活用し、学校理解を図るとともに家庭や地域との連携を深める。
- ・ 伝統工芸「七宝焼」とのかかわりを核に、地域との交流を広げる。

2 自己評価の実施体制

（1）調査時期 平成29年12月11日～18日（保護者・児童・教職員）

平成30年 2月 8日（学校評議員）

（2）調査項目 別紙アンケート結果参照

（3）調査対象（有効回答者数／対象者数）

- ・ 児童 152名／全152名
 - ・ 学校評議員等 4名／全 4名
 - ・ 保護者 142名／全152名
 - ・ 教職員 11名／全11名
- 計 309名

3 調査結果

別紙アンケート結果参照

4 考 察【児童、保護者、教職員、地域等の総括的考察】

- (1) 全体を通して16項目中15項目がAであり、良好である。昨年度と比べても、達成度は、16項目中15項目で評価が同じもしくは高くなっている。
- (2) 本年度は、昨年度と比べて、16項目中児童は12項目、保護者は16項目、教職員は14項目の評価が同じもしくは高くなっている。児童、保護者、教職員とも昨年度と比べて満足度が高くなっていることが分かる。今年度の取組について成果が見られ、評価されたと思われる。
- (3) 昨年と比べて際立って評価が高くなっている項目は、「健康な心身の育成を目指した教育活動」であった。児童、保護者、教職員とも評価が上がっている。達成度もAに上がっている。
- (4) 教職員による評価は、ほぼ自己評価がAとなっているが、「学習の習慣をつける児童の育成」と「計画的な英語活動の推進」では自己評価が下がっている。より具体的な方法を示し、計画的に取り組む必要がある。

5 成果と課題

- (1) 全体を通して評価がよかったことは、今年度取り組んだ教育活動が評価されたと考える。課題が見られた項目については、今年度の活動を振り返り、手立てを考えていきたい。
- (2) 「健康な心身の育成を目指した教育活動」の評価が上がったのは、学校保健委員会で取り組んだ「本校の健康課題とその対応策について」や「ありがとうワーク」、保健だよりによる啓発活動、学校給食センターと連携した食育指導、体育の授業における体力づくりなどの取組の成果であると考えられる。
- (3) 「計画的な英語活動の推進」では、児童・教職員の評価が下がった。平成32年度からの5・6年生の英語科、3・4年生の英語活動の実施に向け、各学年の指導内容、何を身に付けさせていくかなど、学年ごとの指導計画を明らかにして、積極的な指導を進められるようにしていきたい。

6 改善策

- (1) 「学習の習慣をつける児童の育成」について、児童・保護者の評価は上がったが教職員の評価が下がった。自主的に家庭学習に取り組む指導を工夫していく。
- (2) 「健康な心身の育成を目指した教育活動」は、今年度の成果を踏まえ、他校の情報を収集し、積極的に活動内容を改善していく。
- (3) 「計画的な英語活動の推進」は、英語科に向けた指導計画の作成に取り組む。また、ALTと連携し、英語・英語活動の授業における活動内容について考える。